

飯伊 産業経済動向

No.472 2018/7
(30. 8. 25 発行)



http:// www. iidashinkin. co. jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数		前月比		前年同月比			
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	3,864	枚	32.9	%	4.4	%		
	金額	4,533,688	千円	△	1.4	%	9.8	%	
うち不渡発生状況	枚数	0	枚	(前月 0 枚)		(前年同月 0 枚)			
	金額	0	千円	(前月 0 千円)		(前年同月 0 千円)			
倒産件数 (負債額1千万円以上)	県内	10	件	(前月 9 件)		(前年同月 7 件)			
	飯伊	1	件	(前月 0 件)		(前年同月 0 件)			
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(6月)		53	戸	△	14.5	%	△	7.0	%
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(6月)		1.62	倍	(前月 1.51 倍)		(前年同月 1.54 倍)			
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,330	台		1.9	%		2.3	%
	中古車	617	台	△	16.3	%	△	2.1	%
軽自動車新規登録台数 (軽自動車協会連合会長野事務所) (6月)	新車	4,233	台		23.2	%		3.4	%
	中古車	1,013	台	△	12.3	%	△	7.7	%
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	115,360	台		4.1	%	△	3.3	%
	出	116,987	台		4.9	%	△	2.2	%
中央道利用台数 (松川インター分)	入	81,171	台		5.8	%	△	0.4	%
	出	78,620	台		6.3	%	△	1.2	%
中央道利用台数 (園原インター分)	入	17,138	台		6.1	%		22.7	%
	出	16,907	台		2.9	%		19.2	%
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	43,713	台		16.1	%	△	0.2	%
	出	46,161	台		23.0	%		7.0	%
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		145	件	△	2.7	%	△	2.0	%
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		6	件	(前月 40 件)		(前年同月 16 件)			
高速バス乗車人数	飯田～新宿	26,163	人		8.6	%	△	2.3	%
	飯田～名古屋	17,104	人		6.5	%	△	6.7	%
	飯田～長野	9,564	人	△	1.9	%	△	3.2	%
市内循環バス乗車人数	左回り	3,288	人	△	2.1	%	△	0.3	%
	右回り	3,551	人	△	1.8	%		1.5	%

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (<http://www.iidashinkin.co.jp>) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみなさまとともに行っています。



100%植物性インキ
[リサイクル紙100%]を使用しました。

再生紙を
使用しています

概況

製造業

7月の製造業の業況判断指数(DI)は、プラス3.7で、前月から横ばい。翌月予測はプラス6.7で、前月から10.4ポイント上昇している。

電気、精密機械器具の売上は、前月比やや増加、前年比が増加した業者も見られたものの、景況感の好転には至っていない。半導体、液晶製造装置向け部品の販売の前月比は、やや減少～概ね横ばい。「半導体製造装置関連については在庫調整の時期に入り、今後減少傾向」などの声が聞かれ、景況感の悪化には至らないまでも、一時の過熱感はやや和らいでいる。産業機器や医療機器向け部品の受注、販売の前月比は、一部にやや増加との声もあるが、減少～横ばいとの声が多い。建築用金属製品の売上は、前月比、前年比とも増加との声。自動車向け部品の販売は、前月比やや増加も、前年比やや減少、景況感に変化はないという。小型電磁機器の販売は、前月比横ばい～やや増加も、総じて景況感に動きは見られない。FA関連モーターの販売は、前月比概ね横ばい、前年比はやや増加との声が寄せられ、景況感も、悪化までには至らないものの、前月までに比べるとやや後退したという。光学機器部品の販売は、前月比、前年比ともやや増加との声。電気、電子製品の受注は、前月比やや増加、景況感良好との声が寄せられた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前月比横ばい～やや増加。「例年並みではないか」など、景況感に変化はないとする声が多い。水引製品の販売は、盆用品の売上などもあって前月比やや増加～増加。前年比は業者により増減分かれる。漬物の販売は、前月比減少、前年比もやや減少との声。

建設業

7月の建設業の景況DIは、マイナス7.1で、前月から14.3ポイント上昇。翌月予測DIは、マイナス6.7で、前月から6.7ポイント下降した。

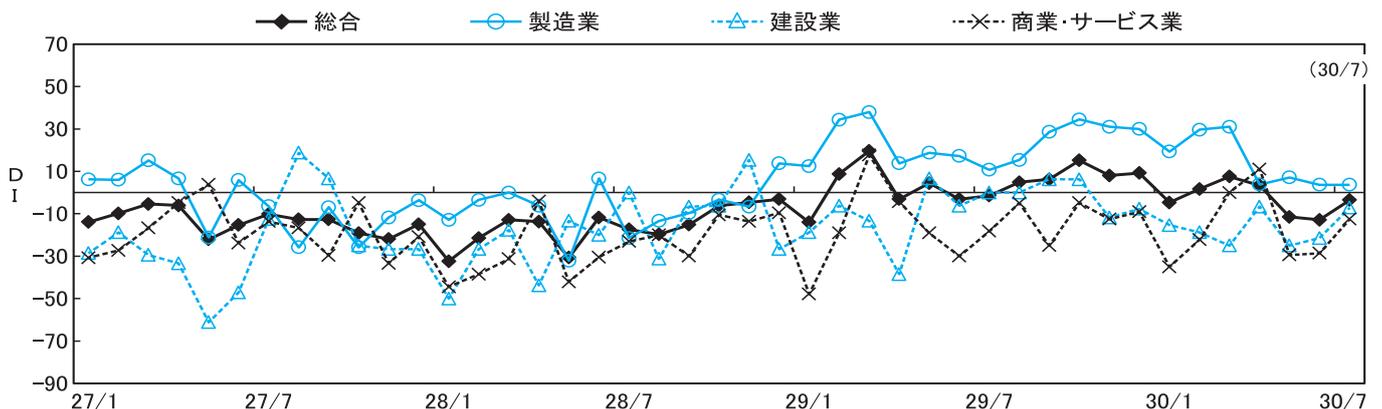
当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、8月15日調査時点で約6.5億円となっている。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、「前年比は減少も前月に比べるとやや増加しており、先行きも上向き」などの声も聞かれたが、そうした声は多くはなく、やや減少～横ばいとの声が多い。

当地区の6月の住宅着工戸数は53戸。前月比15%減少、前年比も7%減少している。当月の調査先企業の受注残高は、前月比、前年比とも業者により増減分かれる。「民間工事と個人住宅はまずまず」などの声が聞かれ、一部に景況感が好転した業者も見られた。

商業・サービス業

7月の商業・サービス業の景況DIは、マイナス12.5と、前月より16.1ポイント上昇。翌月予測DIは、マイナス29.4で、前月より19.4ポイント下降している。食料品の売上の前年比は、減少～やや減少も、景況感の悪化には至っていないとする業者が多い。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加との声。電化製品の売上は、前月比やや増加も、前年比はやや減少との声が寄せられた。OA、事務機器の売上は、前月比、前年比とも増加との声。家事用品卸の売上は、前月比、前年比ともやや増加との声が聞かれたが、「特に消費が増えているとはいえない」という。娯楽用品の売上は、前月比やや増加も、前年比やや減少との声。衣料品の販売は、前月比やや減少、「暑さの影響か客足が鈍い。売上に影響が出ている」など景況感も悪化。土産物の売上は、景況感の好転までには至らないものの、前月比やや増加との声。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比、前年比とも2%増加。6月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比23%増加、前年比も3%増加。自動車販売、整備の売上は、前月比、前年比とも増加との声が寄せられた。市内料理店の売上は、前月比やや増加、前年比概ね横ばいとの声。昼神温泉では、「前年比減少。昨年の方が動きはあった。全体的に動きが悪かったのだが、台風12号の影響でキャンセルが出たのが大きく響いた」「高温注意報が出るくらいの気候で、お客様のチェックインが早い」などの声が聞かれた。タクシーの売上は、前月比やや増加も、景況感悪化との声が寄せられた。

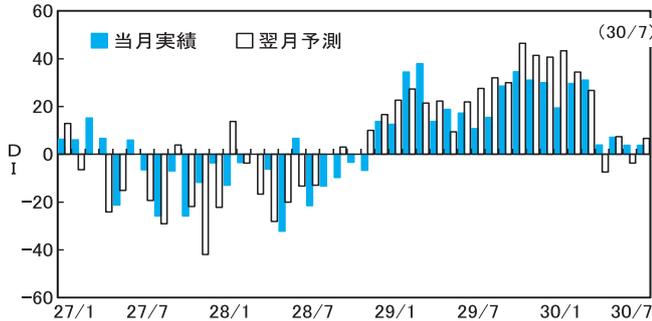
飯伊地区景況DI (本誌調査)



製造業

地区内製造業の景況判断指数

飯伊地区景況DI（製造業）



当月実績 DI	3.7	(前月 3.7)
翌月予測 DI	6.7	(前月 -3.7)

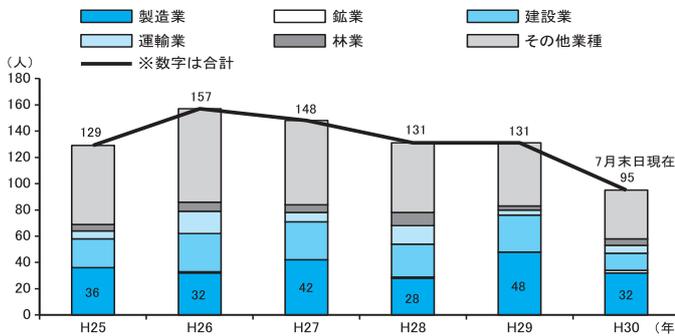
当月の製造業の業況判断指数（DI）は、プラス3.7で、前月から横ばい。翌月予測はプラス6.7で、前月から10.4ポイント上昇している。

飯伊地区の労働災害

7月1日～7日、今年で91回目を迎えた平成30年度全国安全週間が実施された。

下記グラフは飯田労働基準監督署管内の労働災害発生件数の推移を示したもので、製造業に関して言えば、平成30年は7月末日時点で32人発生している。それ以前の5年間で最も多い年間48人の発生件数があった平成29年でも、7月末日現在では19人の発生に止まっており、本年はこれを上回るペースで発生している。

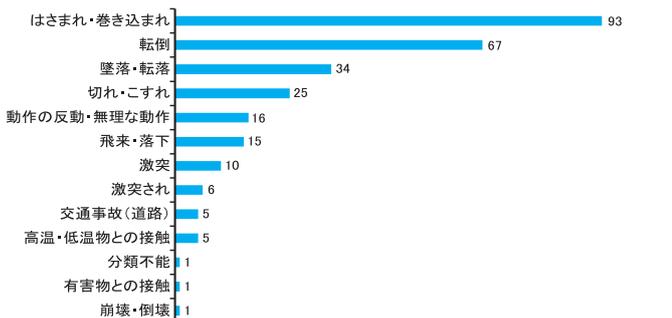
飯田労働基準監督署管内の労働災害発生状況の推移



※平成30年は平成30年7月末日現在、それ以外は各年とも翌年1月末日現在（資料：長野県労働局）

製造業における労働災害の発生態様を見ると、「はさまれ・巻き込まれ」「転倒」「墜落・転落」「切れ・こすれ」といった労働災害が多く、今年7月までに県内で発生した製造業の1人の死亡労働災害も「はさまれ・巻き込まれ」だった。

次表は、労働者一人に労働災害が生じた場合に平均平成30年 製造業の型別 労働災害発生状況（県全体 7月末日現在）



（資料：長野県労働局）

して生じる労働損失日数（労働災害による死傷者の延べ労働損失日数を死傷者数で除したもの。労働損失日数は、死亡の場合7,500日などの基準で算出する）を産業別に見たもので、平成29年に限って言えば、宿泊業、飲食サービス業（旅館、ホテルに限る）が最も死傷者一人平均労働損失日数が多かったが、同業種の死傷者一人平均労働損失日数は、平成26年が24.8日、27年は19.9日、28年が20.9日で、平成29年は特殊な事情があったものと思われる。製造業は、平成26年89.2日、27年56.8日、28年63.9日、29年80.1日で、概して死傷者一人平均労働損失日数は多い。

産業別死傷者一人平均労働損失日数（平成29年 全国 事業所規模100人以上）

死傷者一人平均労働損失日数(日)	調査産業計	55.0
	宿泊業、飲食サービス業（旅館、ホテルに限る）	156.7
	建設業（総合工事業除く）	148.8
	製造業	80.1
	生活関連サービス業、娯楽業（一部の業種に限る）	72.5
	卸売業、小売業	53.9
	運輸業、郵便業	41.6
	サービス業（他に分類されないもの）（一部の業種に限る）	38.8
	医療、福祉（一部の業種に限る）	24.3
	電気・ガス・熱供給・水道業	18.1
	農業、林業	15.5
	情報通信業（通信業、新聞業、出版業に限る）	13.5
	鉱業、採石業、砂利採取業	12.5

（資料：厚生労働省「平成29年労働災害動向調査」）

全国安全週間の機会に様々な労働災害防止対策を実施した事業場も多いことと思われるが、中央労働災害防止協会では、無料で専門家が中小企業の作業現場や店舗のバックヤード等を訪問し、安全状態や作業方法の改善等、安全衛生水準の向上に向けたアドバイスするといった「中小規模事業場安全衛生サポート事業」を実施している。

機械加工製造業

電気、精密機械器具の売上は、前月比やや増加、前年比が増加した業者も見られたものの、景況感の好転には至っていない。一部に先行きも上向きとの声が増え、こうした業者では製品在庫を積み増している様子が窺える。当月、原材料、資材価格に大きな動きはない様子。雇用面で「人材派遣で複数名」との声も。設備面で積極的な声は多い。

半導体、液晶製造装置向け部品の販売の前月比は、やや減少～概ね横ばい。「半導体製造装置関連については在庫調整の時期に入り、今後減少傾向」「先月に続き調整により減少」「今後の動向の様子見。年内は踊り場と見ている」「受注残を崩しているが、売上は減少傾向」などの声が増え、景況感の悪化には至らないまでも、一時の過熱感はやや和らいでいる。製品別には、「サーバー向けは一段落」「スマホ関連は通常生産」「FPD関連では一段落するも、大型部品の需要は強い」「仕掛在庫が減少傾向」などの声。先行きも、当面の生産減少を見込む声が多い。「先月に引き続き材料や工具、刃物類の値上げ」など原材料、資材価格の上昇を指摘する声がある。雇用面では現状維持との声が多いが、一部に「複数名増員。経験者を募集している」などの声も。投資を計画する声も複数聞かれた。

産業機器や医療機器向け部品の受注、販売の前月比は、一部にやや増加との声もあるが、減少～横ばいとの声が多い。「量産物が増加しており、売上は今季最高」「産業機器関連は好調を維持」「継続案件を受注できた。経営の安定に寄与すると見込んでいる」「単品物の動きは良い」「納期、品質が確保できれば受注はできる状況。対応できる体制整備が課題」「7月前半は悪かったが、中盤から上昇。今月後半から8、9月納期が増えている」「工具屋さんは順調に動いているとの声を聞く」などの声の一方、「医療機器関連は今年度が底との話がある。過剰在庫整理のため本年度は新規開発に重点」「大口の動きは多少減少」「中国市場

が減速してきている」「地元の材料屋さんからは今一つ良くないとの声も聞く」「各社ともに減少に転じているようだ」などの声も寄せられ、総じて景況感は、一時に比べればやや後退している。「米国大統領の発言がかなり景気を停滞させている」「どの業界も米中の貿易摩擦の行方を注視している」「今年は前半上昇気流、中期の今は日和見、後期は貿易摩擦で景気後退が予測される」など米中関係の行方を始めとして、先行きの不透明感を指摘する声は少なくない。

「燃料代、ガソリン代値上げあり」「メーカーによってずればはあるが上昇」など原材料、資材価格の上昇を指摘する声は少なくない。「リピート品では特に、製品価格の上昇は厳しい」など製品価格に大きな動きはないとの声が大半だが、一部に「原材料費の上昇に伴い若干」との声も。雇用面では、当面は現状維持の様子。「補充を予定」「新卒者の定期採用は厳しい」などの声が聞かれた。設備面では積極的な声も少なくなく、「計画中」「導入。今後も購入を予定している」「9月に予定」「予定あり」などの声が聞かれた。

建築用金属製品の売上は、前月比、前年比とも増加、「例年この時期は極めて良い」など景況感も好転との声。「オリンピック関連工事などの需要も見込めるが、発注のタイムリミットが近いにもかかわらず、施工者の技術者不足で進捗がはかばかしくない。現場は動いているが、我々の工種には大きな影響が出ている」という。原材料、資材価格は「確実に上昇している」といい、今後も値上がりが見込まれるとの声が聞かれた。

自動車向け部品の販売は、前月比やや増加も、前年比やや減少、景況感に変化はないとの声。先行きも大きな動きは見込まれていないという。

小型電磁機器の販売は、前月比横ばい～やや増加も、総じて景況感に動きは見られない。一部に前年比がやや増加との声も。先行きに大きな動きはないとする声が多い。原材料、資材価格が上昇基調にあるとの声が聞かれた。設備面、雇用面では現状維持の様子。

FA関連モーターの販売は、前月比概ね横ばい、前年比はやや増加との声が寄せられた。景況感は、悪化までには至らないものの、前月までに比べるとやや後退したという。「産業機械向けが減少で推移している。車載向けは増加で推移している」との声が寄せられた。

光学機器部品の販売は、前月比、前年比ともやや増加も、景況感の好転には至らないとの声が寄せられた。先行きに大きな動きは見込まれていないという。当月原材料、資材価格に大きな動きはなかったものの、先行きは上昇を見込んでいるという。

電気、電子製品の受注は、前月比やや増加、景況感良好との声が寄せられた。「新製品の開発依頼なども増えているが、開発リソースが不足して失注することもある」との声が寄せられた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前月比横ばい～やや増加。一部に「特定の販路向けが増加」など前年比が増加した業者も見られた。「例年並みではないか」などの声が聞かれ、景況感の変化はないとする声が多い。「秋ごろから包材の値上げが始まりそう」など、原材料、資材価格が上昇基調にあるとの声が複数聞かれた。雇用面では現状維持の様子。設備面で積極的な声が複数聞かれた。

水引製品の販売は、盆用品の売上などもあって前月比やや増加～増加。前年比は業者により増減分かれる。「夏場を迎え業況はおおむね低調」「高温が続く消費者の動きが鈍かった影響か、販売は減少。天候が企業活動に与える影響を感じる」などの声が寄せられ、景況感が好転した業者は見られない。「正月飾りの注文は例年通り。秋は忙しいのではないか」など先行きの生産の増加を見込む声が寄せられた。「国内資材」を中心に原材料、資材価格の上昇を伝える声が複数。「市場は狭まりつつある」「出荷が減少している。祝儀は共に祝い、仏事は共に悲しむ、そうした文化が廃れつつある」などの声が寄せられたが、そうした中「インスタアシェアを考えると、大手量販店の合従連衡などに大きく左右されるだけに、異業種への販売を進めていきたい」「現状打破を目指した業界一丸となった活動が重要」「組合事務局が移転するが、それを機にネッ

ト通販の体制整備などの時代に合った取組みが期待される」などの声が聞かれた。

漬物の販売は、前月比減少、前年比もやや減少との声。「酷暑の影響か市販品の動きは鈍い。そうした中、梅干しの需要はものすごいと聞く」との声が寄せられた。「この暑さで原料野菜の今後の気になる」という。

その他製造業

食品関連包材の生産は、前月比横ばいも、先行きは生産の増加を見込んでいるとの声が寄せられた。原材料、資材価格や製品価格に当月大きな動きはなかったものの、今後は上昇を見込んでいるという。

印刷、出版関連の売上は、前月比やや増加も、前年比減少との声が聞かれた。「メーカーから、発注時の金額が一定規模に満たない場合に運賃を負担してほしいとの申し入れがあった。かといって転嫁も難しく、負担していくしかないか」など原材料、資材価格の上昇に伴う負担が大きくなっているとの声。「同業でもデジタルソフト関連やノベルティ品など、印刷以外の分野を探っている」という。雇用面で「若手が中途入社したほか、さらに求人中」との声。設備面で積極的な声が聞かれた。

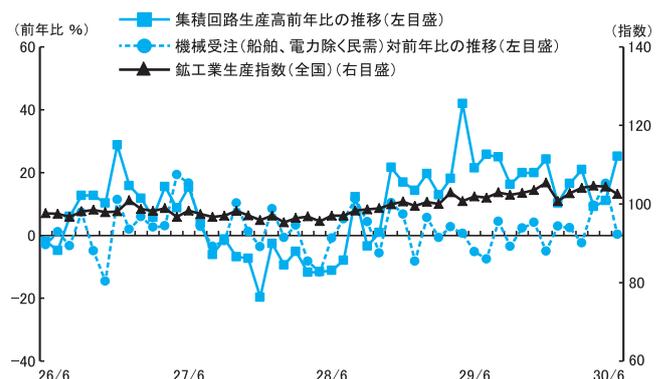
衣料品の生産は、前月比、前年比ともやや増加、先行きも上向きとの声が寄せられた。もっとも消費動向は「猛暑で日傘、帽子、サングラス等はよく売れているが、衣料はセール前倒しで売上が昨年を下回っている。既成スーツの売上もダウン。豪雨や台風の影響で客足も伸びなかった」という。「海外からの輸入率は97%を超えたが、中国生産は従来に比べ約20%も減り、エチオピア生産が増えるなど海外生産の背景が変化している。Made in japanは約3%だが、これ以上生産キャパを確保できず、今後の危ぶまれる」との声が寄せられた。原材料、資材価格や製品価格に当月大きな動きはなかった様子。

住宅機器、オフィス家具や店舗用什器など家具の生産は、前月比、前年比ともやや増加も、「季節要因の影響が大きい。マインドは冷え切っている様子」との声が寄せられた。こうした中、「これだけ大きく動く」と客先のコストダウン要請、受注確保のための値引き合戦が発生する。消費は決して良くなく、更なるコストダウン要請も懸念している」との声が寄せられた。一方、原材料、資材価格は、当月大きな動きはなかったものの、「円安傾向の定着がコストアップになりかねない」との声。設備面で積極的な声が聞かれた。

【企業からのコメント】

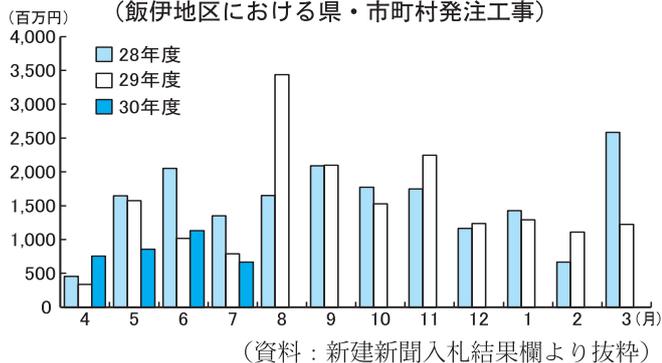
- ★今期の設備投資を推進中だが、修繕費の急激な増加に直面している。
- ★他地域の話だが、住宅関連の一部で業況が悪い業者の話も耳にする。
- ★西日本豪雨などの影響で九州方面の物流に制限が掛かり、チャーター便などの輸送費がかかる。
- ★製品価格の上昇が多少期待できる。
- ★働き方改革の影響か、物流が変化している。
- ★現状維持でどこまで生き残れるか。

集積回路、機械受注・鋳工業生産指数の推移



月別入札額

(飯伊地区における県・市町村発注工事)



当月景況DI -7.1 (前月 -21.4)

翌月予測DI -6.7 (前月 0.0)

官公需

当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、8月15日調査時点で約6.5億円となっている。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、「前年比減少も、前月に比べるとやや増加しており、先行きも上向き」「追加受注の動きは鈍いが、ほぼ前年並みの受注量」「現場代理人は余っているが労務が足りず、パート、下請をお願いしている」などの声も聞かれたが、そうした声は多くはなく、やや減少～横ばいとの声が多い。「発注件数は少ない。7月は受注が増えなかった。前年同期比は今月も減少」「先月同様発注が少なく競争が厳しい。災害で予算が回ってこないのかもしれない。やはり三遠南信自動車道、リニア関連工事に期待」「仕事の発注が遅い感がある」「優良な企業でも土木関係から撤退する企業あり、積極的に県工事に参入する企業ありで様々」などの声が聞かれた。景況感も良好とする業者は見られず、悪化～横ばいとする声が多数を占める。「暑さで作業量が減少」など天候が工事の進捗に影響しているとの声も。

「大手さんはともかく、市、県、民間のみの会社は仕事が少なく下請けに回るようになるが、そうすると代人給料や会社経費がなかなか捻出できず厳しい」「大規模工事の下請けも考えないではないが、受注単価の折り合いが付かない」といった下請けの事情から、「顧客や工種の多様性で元請を確保する」「細かな仕事でも得意工事を軸に、元請に拘る方針」などの声が寄せられた。

「コンクリート製品」を始め、資材価格が上昇基調にあるとの声も複数聞かれた。

民需

当地区の6月の住宅着工戸数は53戸。前月比15%減少、前年比も7%減少している。

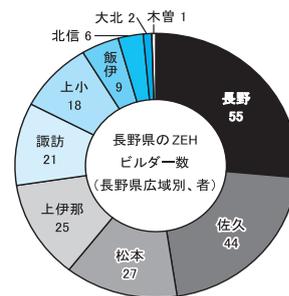
当月の調査先企業の受注残高は、前月比、前年比とも業者により増減分かれる。「民間も工事発注は少ない」「一般工事はそれほどでもない」「新築の受注はない。リフォームのみ」などの声が聞かれた一方、「民間工事と個人住宅はますます」「消費税の影響と思われるが、新築住宅が増えている」「精密関係の工場の増築が多いとの声を聞く」などの声も聞かれ、一部に景況感が好転した業者も見られた。

「人員は不足」「高齢化で不足」などの声が聞かれたほか、「当地区で大型物件がいくつか出ているので、職人さんが足りない。これからは特に大工さんの確保が難しくなりそう。職人不足は工事単価の上昇にも影響している」などの声が寄せられた。資材価格が上昇基調にあるとの声も多い。

飯伊地域のZEH

(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)ビルダー

経済産業省では、「2020年までにハウスメーカー等の建築する注文戸建住宅の過半数でZEHを実現すること」を目標とし、普及に向けた取り組みを行っている。この目標の達成に向け、平成28年度より、ZEH支援事業(補助金制度)において自社が受注する住宅のうちZEHが占める割合を2020年までに50%以上とする目標を宣言・公表したハウスメーカー、工務店、建築設計事務所、リフォーム業者、建売住宅販売者等を「ZEHビルダー」として公募、登録し、屋号・目標値等の公表を行っている。平成30年1月現在長野県では208者、飯伊では9者のZEHビルダーがある。



(資料：(一社)環境共創イニシアチブ)

建設資材

塗料、建設資材等の売上は、前月比やや減少。前年比は業者により増減分かれ、「建築では、新築、改築とも物件数は出ている。年末までは忙しくなりそう」との声の一方、景況感が悪化した業者も見られた。雇用面で「今月1人採用」との声も。仕入価格が上昇基調にあり、今後も当分続くとする業者が多い。

鋼材の売上は、前月比、前年比ともやや増加も、「大きな動きはなく、動きとしては低調。きっかけとなるような動きもなく、様子見の状態の上向く気配はない」「流通も売り先の確保に苦労している。先行きも予想できない」など景況感の好転には至っていないとの声が寄せられた。鋼材価格に関し「ジリ高傾向にあり小刻みな値上げが続くと思われる」という。

生コンの売上は、地域によっては「当地域では7月の西日本豪雨、8月の台風12号の影響もあまりなく、各現場とも順調に打設でき、まずまずの出荷量」など、前月比、前年比とも増加との声も聞かれたが、「主な出荷は、浄水場工事、リニア関連工事、特養、公民館やビジネスホテルの建築工事、砂防工事に関わるもの。総じて前月比、前年比ともやや減少」などの声が多い。JR発注のリニア関連工事は前月より減少という。

骨材の売上は、前月比、前年比とも減少。「変わらず良くない」「動きが少ない月だった。リニア関連工事や三遠南信自動車道関連工事の動きも一部にわずかな程度。今後にずれ込んでいる様子」などの声が寄せられた。先行も大きな動きは見込まれていない。一部に在庫を積み増している業者も見られた。雇用面で積極的な声が聞かれた。

【企業からのコメント】

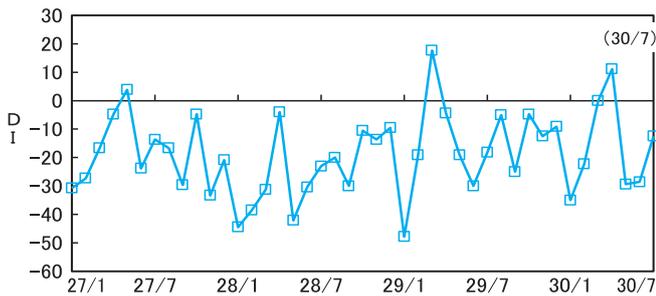
- ★仕入が上昇気味だが販売価格に転嫁しきれず、利益率はマイナス気味。
- ★当地域では公共工事を受注した業者もあれば、まったく仕事がない業者もあり、格差が生じている。

住宅建築確認申請受付状況 (※本誌調査による概数)

7月	
○飯田建設事務所分	
新築	11件 (前年 14件)
増築	8件 (前年 3件)
○飯田市役所分	
新築	22件 (前年 31件)
増築	0件 (前年 1件)

※指定確認検査機関分を含む

商業・サービス業DI



当月景況DI	-12.5	(先月 -28.6)
翌月予測DI	-29.4	(先月 -10.0)

商業

食品の売上の前年比は、減少～やや減少も、景況感の悪化には至っていないとする業者が多い。「猛暑の影響が野菜類の価格上昇」「高温のため野菜類が不足で、高値と品不足が生じている」など天候による仕入の上昇を指摘する声が多く、こうした傾向が続くと見込む業者は多い。仕入の上昇を転嫁する動きも見られたが、目下のところ例年並みとする声が多い。雇用面で「部門により不足感がある」「高卒者の採用を考えている」などの声が聞かれた。

【青果卸売市場】

売上は、前月比やや減少も、前年比やや増加という。「高温早魃で青果物の品不足が始まっている」という。野菜は、「7月上旬の大雨の後、異常な高温早魃で生育不良。消費者の食欲も落ちている中、入荷量4%減。価格は品薄を受けて15%高。お盆に向けて暑さが続き、次月も品薄による高値が続く予想」という。果実は、「主力の桃は、ほぼ一昨年並みの入荷だが、少雨で小玉傾向。西瓜は早魃で出荷量が非常に少ない。果実全体では入荷量前年比9%増も、一昨年比17%減。価格は、ほぼ前年並み」という。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加、先行きは弱含みとの声。景況感に動きは見られない。設備面で不足感があるという。

電化製品の売上は、前月比やや増加も、前年比はやや減少との声。「異例の酷暑でエアコンの受注、売上が急増。商品の手配は間に合っているが、取付、施工の人数が不足していて、8月もこの状況が改善される様子もない。エアコン関連以外は例年通りの推移」という。

OA、事務機器の売上は、前月比、前年比とも増加との声が寄せられた。「例年、次月はもっとも業績が低迷する」など先行きは弱含みという。「カートリッジが値上がりする」など仕入が上昇基調にあるとの声も寄せられた。

家事用品卸の売上は、前月比、前年比ともやや増加との声が多かったが、「昨年のこの時期、飯田市指定ごみ袋の変更に伴うごみ袋の発売前で売上が少なかったため前年比増加。特に消費が増えているとはいえない」「暑すぎて殺虫剤が売れない」などの声。

娯楽用品の売上は、前月比やや増加も、前年比やや減少との声。「季節商品で前月比増加も、猛暑で外出を控える傾向もあってか、前年比は減少している」という。

衣料品の販売は、前月比やや減少、景況感も悪化。先行きも弱含み。「暑さの影響が客足が鈍い。売上に影響が出ている」「買い控えや購入単価が減少」などの声も寄せられた。一部に仕入が上昇基調にあるとの声がある。

土産物の売上は、景況感の好転までには至らないものの、前月比やや増加との声。仕入価格が上昇基調にある一方、販売価格は横ばいという。

松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比、前年比とも2%増加。中古車は、前月比16%減少、前年比も2%減少した。6月の県全

体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比23%増加、前年比も3%増加。中古車は、前月比12%減少、前年比も8%減少。

自動車販売、整備の売上は、前月比、前年比とも増加との声。「新車の販売台数大幅増加で売上も増加」「中古車は、前月と比べると、台数は前月比プラス6%で、台当り利益はほぼ変わらなかった。前年と比べると、台数は同数だが、品不足もあって売れ筋の相場が良好で台当たり単価は上昇している」などの声が聞かれ、景況感も改善している。もっとも、「酷暑でお客様もゲンナリしているのか、新規の商談が減少しているように感じる。また、納期が3か月以上先というのが多く不透明感が漂うが、足元ばかりを気にするのはなく受注を積み上げていきたい」との声も聞かれた。

サービス業

市内料理店の売上は、前月比やや増加、前年比概ね横ばい、「店売りが良く前年に届いたが、暑すぎて良くない」など景況感悪化との声も寄せられた。「野菜、魚が高い。価格を少し上げた」「お盆を控え在庫を増やしている」などの声が聞かれた。

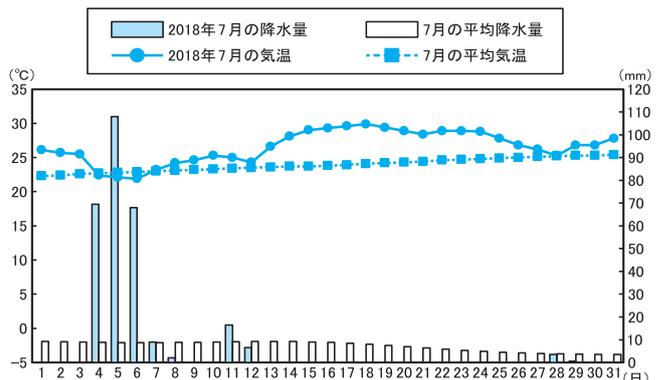
昼神温泉では、「前年比減少。昨年の方が動きがあった。全体的に動きが悪かったのだが、台風12号の影響でキャンセルが出たのが大きく響いた」「高温注意報が出るくらいの気候で、お客様のチェックインが早い」「暑い日が続く、エアコンがフル稼働。入れ替えも含めてコストの増加が気になる」などの声が聞かれた。ナイトツアーに関し「お客様は増えた。しかし、全体的には伸び悩みの感もある」「週末はほぼ満館。もっとも各地で同様なイベントが始まり、翳りも感じられる。若い方が中心で、飲み物や土産物の売上が伸びない。一方、近隣のコンビニなどは深夜賑やか」などの声も寄せられた。雇用面で、「7月は現状のスタッフで乗り切ったが、次月は外注をお願いしないと乗り切れない」との声も聞かれた。

タクシーの売上は、前月比やや増加も、「依然として夜間のご利用は停滞気味」など景況感悪化との声も寄せられた。依然「LPGが上昇傾向」という。「高齢社員の退職でますます労働力の確保が重要だが、新規乗務員の獲得が難しい」「公共の道路を利用して営業する以上、法令順守こそ業界の地位、信頼の向上につながる」との声も聞かれた。

【企業からのコメント】

- ★店舗改装により売上減少。
- ★特別な案件で売上増加。
- ★売上は増加しているが、これに対する利益の確保はなかなか難しい。
- ★最近業界に努めていた人が、ごく小規模で独立する動きがある。
- ★人の入れ替えは難しい。
- ★近い将来、事業承継がどうなるか深刻に考える事業者もあるのではないかと。

飯田の気温と降水量



リニア山梨県駅と山梨県内の状況

当課ではリニア中央新幹線中間駅地域の信用金庫との情報交流を進めておりますが、このほど山梨県へ3回目の訪問を行い、山梨信用金庫（本店：甲府市）、甲府信用金庫（本店：同）と情報交換を行いましたので概略を紹介します。

1. 山梨県内の状況

山梨県内で工事中なのは南アルプストネル山梨工区（早川町）のみ、という状況に変わりありません。駅周辺整備は、平成25年7月から28年1月にかけて「山梨県リニア駅周辺整備検討委員会」で策定された「リニア駅周辺整備基本方針」（以下「基本方針」）、平成27年8月から28年7月にかけての「山梨県リニア環境未来都市検討委員会」で検討されてきました。

本年1月から、山梨県は新たに「未来都市創造会議」を設置し、リニア駅が「山梨県全域にリニア開業効果が影響する」（第1回会議県知事挨拶）ための検討を進めています。発表された議事録の中で、①山梨県駅が山梨県内にとどまらず、「長野県まで影響範囲に含む広域のゲートウェイになる」（第1回会議議事録）として「県内外の動きを踏まえながら検討」（同）していく、との意見が出ていることを認識しておく必要があります。また、②観光交流施設として山梨県駅でもコンベンション施設を検討対象としていますが、「リニア長野県駅でも広域連合でコンベンション機能を検討」（同）、「リニア神奈川県駅でもそのような機能を検討」（同）していることから「今後の需要等を含め」（同）検討したい、としていることは注目されます。

同じく山梨県のホームページに掲載された設計チームによる企画提案は下図になります。交流ゾーンにはコンベンション施設が取り入れられています。



リニア山梨県駅予定地
ほぼ予定線上に立ち、南アルプス方面を望む

リニア山梨県駅周辺整備イメージ



(株)日建設計シビル・三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)共同企業体による企画提案イメージ

(山梨県HPより)

2. リニア山梨県駅予定地の状況

リニア山梨県駅予定地を訪問しました。青々とした圃場が広がるなか、駅周辺整備はまだ検討段階にあるためか、現場には特別の動きはみられませんでした。

予定線上と思われる箇所には鉋が打ち込まれていましたが、リニア新幹線のものかは判断できませんでした。



山梨県駅予定地で

3. 南アルプストンネル現場の状況

南アルプストンネル（山梨工区）の早川町の現場を訪ねました。

身延町から県道37号線を辿り、早川町へと向かいます。同町の新倉地区には、県道37号線の旧道沿いに2箇所の非常口が設置されます。そのうち1箇所は本格掘削に入っており、もう1箇所は準備工事中の様子でした。町内には更にもう1箇所の非常口が設置されます。

同じ県道37号線沿いには、南アトンネル山梨工区を担当する大成建設・佐藤工業・銭高組JVの事務所・作業員宿舎が建てられていました。町内にはここだけでなく付近にもう1箇所作業員宿舎と見られる建物群がみられました。

山梨県内でも、発生土については、まず仮置き場で対応しているようで、県道37号線沿いに大規模な仮置き場がみられました。町内ではこれ以外にも発生土と見られる置き場があり、最終的にはどのような処理になるのか注目していきます。



県道37号沿いの非常口

一箇所は矢印方向に掘削。もう一箇所は旧道の手前部分で掘削が行われる。



施工担当JVの事務所・作業員宿舎

4. 訪問を終えて

工事面では、環境面をはじめ長野県・山梨県共通の課題があるように思われました。

また、リニア開通に向けた地域の課題を共有していくことが必要として、今後とも沿線連携を進めていくことを両信金と確認しました。



トンネル工事発生土置き場

(飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平)

想定外を想定する?!

飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課
 中小企業支援アドバイザー 佐々木信高

開口一番「暑いですねー！」と挨拶が交わされるほど、今年の猛暑には辟易する毎日でした。全国各地で農産物に影響があっただけでなく、多くの方が熱中症で救急搬送されたり、保育園や学校では行事の延期や取り止め、部活動の中止も余儀なくされ、日常生活にもかつて無い大きな影響がありました。この猛暑は、日本だけでなく世界的な状況のようですが、海外メディアでは、2020年の東京オリンピックについて開催時期の変更について提言する報道や、JOC（日本オリンピック委員会）からサマータイムの導入について政府に検討要請もありました。気象庁も「災害レベルの猛暑」と発表して、国民に危機感をもって対応するよう呼びかけていますが、自然のことでもあり、次の一手が出ないのが現状ではないでしょうか。

暑さだけでなく、7月始めには、西日本の岡山県や広島県を中心とした大雨により、多くの尊い命や住宅が被害を受けました。さらには台風12号が通常ありえない逆走した進路を取るなど、異常気象という言葉だけでは片付けられない自然の大きな力に、人間の無力さをつくづく感じたのは私だけではないと思います。

この猛暑や大雨による災害報道では、「かつて無い〇〇〇」「想定をはるかに超える〇〇〇」「予期しない〇〇〇」「史上初めての〇〇〇」「経験の無い〇〇〇」というような見出しが紙面を賑わせました。行政庁はもとより、我々も「今までと違うな」ということを充分理解したのではないかと思います。もはや「異常気象」とか「想定外」では済ませられない状況の中、自然に対して危機意識をもっと高める必要があると思います。今まで取っていた気候変動への対応や対策も通用しない現実があり、今や「想定外を想定」しなければならない時期にきているのではないかと思います。

企業経営においても想定外のことが起きる可能性はあります。自然災害による罹災だけでなく、取引先の倒産、食中毒の発生、社長の急死等突発的なことがないとは言いきれません。今まで、順調に運んでいた経営が上手くいかなくなることも想定されます。よくいわれる「歯車が狂う」という状況になることです。不測の事態においても安定した経営をしていくための準備をしておくことは、中小企業にも必要です。



こういった不測の事態に対応するためにBCP（事業継続計画）という手法があります。東日本大震災の折に、多くの企業が事業の継続が困難となって廃業や休業に追い込まれたこともあって、この手法を取り入れる中小企業も多く出てきています。

中小企業は危機管理が苦手といわれますが、自然災害等による事業の中断を最小限にとどめ、中核となる事業の継続・早期復旧を可能とするために国や県も力を入れています。

BCP（事業継続計画）の概要や支援施策についてホームページに掲載されておりますので、この機会に、一度ホームページを閲覧してみてください。

〈緊急事態に強い企業になりたい〉
中小企業BCP（事業継続計画）普及の促進

対象となる方

BCP（事業継続計画）を策定・運用しようとしている中小企業の方

支援内容

中小企業庁では、中小企業の特性或実情を踏まえ、業種や規模に関わらずBCP（事業継続計画）の策定や継続的な運用をして頂くために「中小企業BCP策定運用指針」を作成しています。BCP策定に最初の一步が踏み出せない中小企業・小規模事業者等に対してBCP関連の専門家等を派遣するなど専門的見地からの支援を行っていますのでご活用ください。（事業者の費用負担無し、派遣回数3回まで）

ご利用方法

下記URLにアクセスしてください。

* 中小企業庁ホームページ

中小企業BCP策定運用指針 ～緊急事態を生き抜くために～

URL：http://www.chusho.meti.go.jp/bcp/

* 中小企業庁ポータルサイト「ミラサポ」のホームページ

中小企業BCP策定支援事業

URL：https://www.mirasapo.jp/specialist/index.html

融資制度

BCPの計画を講じる際の費用に対して、長野県中小企業融資制度の「新事業活性化資金（防災・安全対策向け）」が利用できます。

飯田信用金庫では、2名の専門アドバイザーによる継続的な事業支援を行っています。

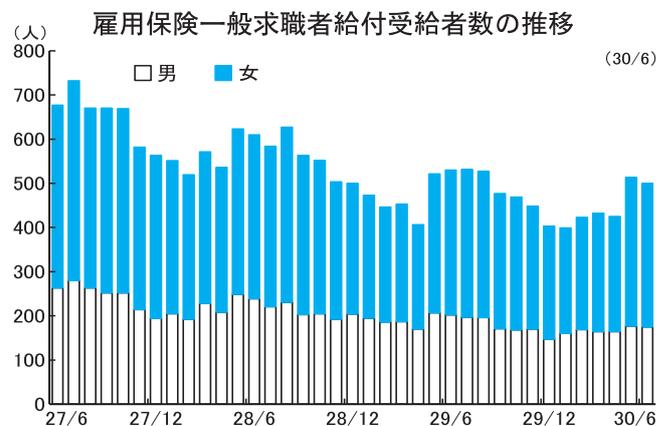
今回執筆を担当した当金庫専門アドバイザー 佐々木信高 は、商工会、商工会議所で地元中小企業の支援業務に長く携わった経験を基に、皆様の課題の解決に向けた取組のお手伝いをさせていただきます。

ご用命は、飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課（飯田市本町1-2 飯田信用金庫4階 TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132）まで お気軽にお申し付けください。

雇用の状況



6月の月間有効求人倍率は、パートを含む実数で1.62倍と、前月から0.11ポイント上昇。パートを除く実数は1.46倍で、前月から0.19ポイント下降している。



6月の雇用保険一般求職者給付の受給者数は、男性は前月から2人減少。女性も前月から11人減少しており、全体では500人と前月から13人減少している。

（資料：ハローワーク飯田）